

校長室通信

令和6年6月5日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

5月25日(土)の運動会では、たくさんの保護者や地域の皆様にあたたかい応援をしていただきありがとうございました。子どもたちも練習の成果をしっかりと発揮できたのではないかと思います。運動会までの練習や本番を通して、「みんなで協力すること」「集団での規律」「最後までがんばること」「お互いに応援し励まし合うこと」など、たくさんのことを学ぶことができたと思います。これらの学びを日頃の学習にしっかりと活かせるよう指導していきます。

避難訓練を通して

6月4日(火)に避難訓練を実施しました。年度当初に各学級では避難経路の確認や様々な災害に応じた対応の仕方について指導は行っていますが、全校での避難訓練は本年度初めてです。今回は、給食室からの出火を想定して各学級から整列して避難しました。どの学級も静かに、素早く避難ができており、4分程度で全児童が運動場に出てくることができました。

災害発生時は、すべての児童を一人残らず、安全に、確実に避難させるために、各担任は、学級の子どもたちが全員そろっているか確認し、他学級と交錯しない避難経路を通して子どもたちを安全な場所に誘導します。担任外の教員は、トイレや特別教室などに取り残された子どもがいないか素早く点検します。糟屋地区で最も児童数が多い志免西小ですが、全職員で子どもたちの安全を守る体制を構築していきます。

「自分で自分を守る」を考える

今回の避難訓練は、「事前に」「災害発生日時や

場所を指定して」「授業中に」「担任の指示のもと」「全員で」避難の練習を行いました。しかし、実際の災害はいつ起こるかわかりません。特に昨今の災害は「まさかこんな時に、こんなところで、こんな災害が、これほどの威力で」と思わされることが多くなってきました。

ひょっとしたら、昼休みの終わりに、運動場から教室に戻ろうとした靴箱で非常ベルが鳴るかもしれません。そのときに「いったん教室に戻るべきか？このまま運動場に避難すべきか？」を自分で考え、判断する必要があります。ご家庭でも登下校中の安全や留守番中の安全など、一緒に考える機会を持っていたいただきたいと思います。

このような「自分で考えて行動する」ことは、日頃の学校生活の中でたくさんあります。いつも先生の指示を待って、言われたとおりに、言われたことだけをやっているだけでは、いざというときに行動できない人間になってしまいます。

「このような状況ではどのように行動すべきか？」を子どもたち一人一人が考える習慣を学校生活の中でも多くつくっていききたいと思います。

